信濃毎日新聞
1873年（明治6年）創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社　〒380-8546
長野市南県町　657番地
電話(026)
受付 236-3000 編集 236-3111
販売 236-3310 広告 236-3333
松本本社　〒399-8711
松本市宮田　2番10号
電話(0263)　編集25-2151
販売・広告・事業25-2153
©信濃毎日新聞社2003年

遠隔看護システム開発

県看護大中心研究グループ　携帯端末を改良

県看護大（駒ケ根市）の北山秋雄教授（健康保健学）を中心とする研究グループは、在宅の患者や介護者、看護師、医師などを通信技術で結ぶ「遠隔看護」の新システムを国内で初めて開発し、三日までに特許申請した。患者や介護者の生活を支援し、不要な外来治療を減らして医療費の抑制を図る。来年春に実証実験を行い、来年中の実用化を目指す。

【関連記事南信面に】

生活支援と医療費抑制

システムは、看護大と、健康福祉分野の装置製造も手掛けるタカノ（上伊那郡宮田村）が信大工学部（長野市）の協力を得て開発した。テレビ会議システムや動画が送受信できる携帯端末などを看護用に改良し、安価でサービスを提供する。

患者の自宅や訪問看護ステーションにカメラやマイク、モニターなどの装置を置き、患者とステーションの装置は二十四時間接続。患者の家族や介護者、主治医は携帯端末を持ち、必要に応じていつでも連絡を取れる。患者やステーションは、画面を分割して複数の人と同時に通信ができる。

こうしたリアルタイム（即時）の通信に加え、血圧の推移など患者の体調に関する情報を患者自身や介護者が必要な時に得たり、リハビリの仕方を確認するなど、療養に役立つ「学習支援」のプログラムをシステムの柱に組み込む。

北山教授は「高齢化や過疎化が急速に進む中、今後の看護、介護は在宅療養者の生活の質を高めることが重要。看護師らと常につながっていることで患者や介護者が安心でき、システムを通じて患者同士の交流も深めることができる」とする。

テレビ電話や通信衛星などを利用して手術の様子などを送受信する「遠隔医療」は各地で試みられているが、機器の設置に多額の費用がかかるのが課題。今回のシステムは、装置を必要な時に貸し出す形で利用者負担を軽くすることも狙いだ。

普及には大容量高速通信網の整備も必要だが、北山教授は「将来は毎月のレンタル料を一万円以下に抑えたい。介護保険の福祉用具として認められれば、利用者の負担はその一割になることも考えられる」としている。

北山教授によると、電話を

清酒
遠く元禄の昔から…。
本菊泉
南佐久・臼田
きつくら

天気　4日

6時	9	12	15	18	21	あす6
飯山		最高		7	最低	4
長野				9		3
大町				7		0
上田				9		2
佐久				9		1
軽井沢				6		−3
松本				11		−1
木曽福島				9		0

紙面から

佐久市の三セク債務超過８億　3
電柱なし道路―日本は７％　4
国連総長が米に自制を求める　7
阿智の戸沢鉱山跡入り口発見　南信
どうなる？辞書の未来　21
世界ユースサッカー日本大敗　26